

## 第72回広島大学講演会

# 「ベトナム戦争の戦禍からの復興の創造」

Le Ly Hayslip

秋野成人

平成28年10月9日、オリバー・ストーン監督映画「天と地 (Heaven and Earth)」の原著者であるレ・リイ・ヘイスリップ氏を講師に迎え、広島国際会議場ヒマワリにて、第72回広島大学講演会「ベトナム戦争の戦禍からの復興の創造」を開催いたしました。当日、参加者は130名を超え、講演に真剣に耳を傾けるとともに、質疑応答も熱心なやりとりがなされ、大変有意義な講演会となりました。

本稿は、当日のテープ録音をもとに、その概要を報告するものです（なお、講演に引き続き行われた、フロアとの質疑応答については、紙幅の関係上、省略させていただきました）。

### 【広島大学大学院法務研究科長あいさつ】

広島大学大学院法務研究科の秋野でございます。一言、ご挨拶を申し上げます。

今日は、第72回広島大学講演会として、Le Ly Hayslip氏による講演会を開催いたします。

法務研究科は法曹を養成する教育機関です。しかし、今一度いかなる法曹を養成すべきかを考えますに、世界に向けて平和を訴えることができる、平和の原点ヒロシマにある法科大学院として、法律紛争を既存のルールに基づいて解決できることはもちろん、新たな変化に対して、プリンシプルを選択

し、それに基づいてこれまでとは異なる解決の道を創造することのできる法曹を養成する使命があると考えます。本研究科が2つの付加価値—プロフェッショナル性と創造性—を有する法曹を養成しようとすることを広く伝えたく、そのようなメッセージ性のある講演会の継続的な実施を計画しております。

本日の講演会はとりわけ平和構築への創造性を考える重要な第1歩と位置づけています。

Le Ly氏は、ベトナム出身アメリカ在住の女性作家です。彼女は、ベトナム中央部の小さな町で農家の6人兄弟の末っ子として生まれました。1962年、12歳の時に、住んでいた町がベトナム戦争に巻き込まれ、ヴェトナムと政府軍が代わる代わるにこの町を支配したために、それぞれからスパイとして拷問を受けるなど悲惨な経験を経て、1970年にアメリカ合衆国に渡り合衆国市民となりました。その後、1986年にベトナムに戻る機会を得た際に、ベトナム戦争により残された、荒廃、貧困、疾病に苦しむ祖国の惨状を目の当たりにしてショックを受け、2つの基金を創設し、博愛主義に基づく慈善活動を展開することとなったのです。Le Ly氏は、ベトナムに医療センター、職業訓練所、戦争孤児施設などを作り、戦争による荒廃から人々が立ち直り、自立するための救援活動を続けています。

Le Ly氏は、“When Heaven and Earth Changed Places: A Vietnamese Woman's Journey from War to Peace” および “Child of War, Woman of Peace” の2つの著書を発表されました。

前著は Oliver Stone 監督の映画「天と地」の原著書です。それまでの映画では戦場となった祖国の実情が伝えられず、むしろ事実が歪められていることに抗して、真実を伝えるために前著を書かれ、その映画化を実現したのです。

ベトナム戦争後51年経った現在もその戦禍の影響を受ける祖国の復興に尽力されるとともに、ベトナム戦争で深く傷ついたアメリカ合衆国の退役軍人

やその家族にも心を砕いておられます。博愛主義に基づき両国に架け橋を築く、Le Ly 氏の行動は世界平和構築の1つのモデルであり、そこに秘められた創造性を多くの若者に感じ取ってほしいと考えております。

本日の Le Ly 氏の講演をご参加の皆様にも実り多きものとなりますことを祈念いたしております。

最後に、今回の講演会を開催するにあたり、ご協賛いただいた、特定非営利活動法人広島ベトナム協会ならびに日本ベトナム友好協会広島支部の皆様にも心より感謝申し上げます。

これをもって挨拶とさせていただきます。

### 【Le Ly Hayslip 氏のご講演】

皆さん、こんにちは。

今日こちらにいらっしゃる多くの方たちのおかげでこの会を開くことができ、また今この場にいることができ、とても感謝しています。

何事も一方通行ではなく、相互のやり取りで成り立っています。私はみなさんに参加してもらいたいし、一緒にこの場を共有したいです。良い午後にしましょう。

広島大学に感謝します。この空間を提供し、皆さんを歓迎してくださいました。私たちがここにいることができ、とても光栄です。今日は本当にありがとうございます。

日本へ来たのは今回が初めてではなく、4回目です。前回とても感動して、また広島に戻ってきたいと思っていたので、とても感謝しています。

ベトナム戦争がありました。そして私はベトナム人です。今日はみなさんと自分の人生について共有したいと思っています。

ご存知のとおり、ベトナムは日本と同じで、はるか先代から生き抜くための術を全て持っていました。

アメリカとの戦争が初めてではなくて、1000年前の中国との戦争、100年前のフランスとの戦争、短いですが日本との戦争もあり、それからアメリカとのベトナム戦争がありました。戦争によって、農民や、私達の先祖のお墓、田んぼ等、生活の全てを失ってしまいました。

1960年、私が10歳の時に、私の村を戦争が襲いました。私の家族は革命的で、ホーチミン市の外でずっと闘い続けました。家族は敵に向かって戦ったのではなく、国のため、親や先祖が私たちに残してくれた土地、故郷のために闘っていたのです。

1960年から1965年にかけて、村が戦争に巻き込まれるなか、私は、拷問施設に入れられたり、強姦されたり、村やベトナム全土で起こった惨状を目の当たりにしたりしてきました。

こんな状況のため、私には勉強したり、みなさんみたいに大学で学んだりする機会がありませんでした。ほとんどのベトナム人が受けたいと願っていた教育を受けることができませんでした。

日本では大学や病院、普通の街路樹のある通りでさえ、全てが美しいです。ベトナムと異なります。日本も多く多くの困難を乗り越えてきましたが、この70年間でここまでの平和を作り上げて、感動しました。

キラ村のような貧しい村では子供への教育がなく、生きていることだけでも奇跡だといえるほど、不運な子供には何もない一方、アメリカへ移住し、学ぶことができましたのはまさに幸運でした。

私がアメリカに行ったのは20歳の時、1970年代でした。私がベトナムで覚えたことは、アメリカでは役に立ちませんでした。

まだ当時は、ベトナム戦争が続いていました。アメリカ人はみんな、ベトナム戦争が起こったのは、私のせいだと言わんがばかりに指弾され、全てベトナム人のせいだと思われていました。

私の最初の夫は、もともと第二次世界大戦の兵士であり、彼の二人の息子や兄弟たちも、ベトナム駐在のアメリカ軍にいました。

1973年、夫は二人の子供を残して亡くなりました。1975年に再婚し、もう一人の息子が生まれました。

当時のアメリカはそんなに平和でいい国ではありませんでした。なぜなら、アメリカの皆さんもそれぞれ必死でもがき、生きるために闘っていましたし、みんなベトナム戦争のことで心に傷を負っていたからです。

1983年に二人目の夫も亡くなり、私はシングルマザーとして、3人の息子を育てました。

その時、私の中の誰かが言ったのです、アメリカは私の天国ではない、私はベトナムに帰らなければならない、と。

アメリカではサンディエゴに5件の家を持ち、ビジネスもしていました、すべてうまく行ってはいたのですが、それは私の心を充たすものではありませんでした。さみしくてたまりませんでした。なぜなら、ベトナムの田舎が恋しかったからです。

でも当時、アメリカはベトナムに対して制裁を科していましたし、私はアメリカ国民でした。アメリカのパスポートには、いかなる共産国に入国してはならないと書いてありました。でも私は一人の人間であり、法律もよく知らないですし、国のいうことに従うのも上手じゃありません。私のなかでは、国や家族への愛が一番大事だと信じていました。

だから、アメリカで所有していた全てを弁護士にすべてをゆだね、一人でベトナムへ戻りました。その時、私が戻らなかつたら、全てを売り払って、3人の息子を施設に入れるように、弁護士に言い残しました。

文化的に、そしてここにいる皆さんにも関係することだと思いますが、自分の先祖はだれか、自分のルーツを確認し自分を再確認することが大事です。どのようにして今日ここに至っているのか、どんなものを所有しているのかということ、遡り、考えなければなりません。

ここにいる若い方達に、今考えてほしいのは、どのように生きていくのか、何をしたいのか、どのようにになりたいかということです。いつも考えてくだ

さい。ご先祖やご両親がいなければ、私達はここにはいなかったのです。そして私達がいなければ、子供や孫はいないのです。ですから、何かに取り組み続けてください。何かをしたいと思った時に、そこに思いを致せば、少し自分を犠牲にすることもできるはずです。

今の最新の技術では、月に行ったり、宇宙で何かを造ったりということさえできますが、一番大切なものは、山の景色や先祖のお墓、田んぼ等、美しい自分の出身地です。これは日本人にとってもそうでしょうし、ベトナム人にとってもそうだと思います。

私がベトナムへ帰ったのは、1986年、36歳の時でした。第一に母親に会うため、第二に5人の兄達に、1964年、5歳の時に別れて北ベトナムでの戦争へ行った兄に会うためです。

私はアメリカ国民でしたが、兄は共産党員だと知っていたので、彼が私を受け入れてくれるかわかりませんでした。ただ、心を開いて会うしかありませんでした。

ベトナムに帰って母と会うという私の夢はかないましたが、兄に会うためには、政府による数多くの許可を得なければなりませんでした。

兄を交えた夕食の際に、お土産に持ってきたチョコレートを渡そうとしたとき、兄はそれを受け取るわけにはいかない、アメリカ人がそれに毒を入れ、ここに持たせたに違いないからだと言ったのでした。

その時、私は、共産主義と資本主義では、考え方も感じ方も全く異なるものなのだと気づきました。そしてある時母は兄と私をそれぞれ見て言ったのです。あなたは私の年長の息子で、あなたは私の末っ子の娘です。ここでは、あなたたちは一緒に食事をしている、それは愛そのものでしょう。今、あなたたちが話していることはすべてこの家の外のことで、すべてを外に置いてきなさい。家族として、愛を持って、一つになりなさい、と。そして私は気づいたのです。愛が最も大切で、全てを乗り越えるのは愛しかない。

当時、ベトナムの人々は飢餓や貧困で苦しんでいました。だから私は兄に

頼みました。私のことをほんの少しでも信用してくれたら、この国を問題だらけにしたアメリカ人が帰ってきて、戦後のベトナム再建を手伝うのを見せてあげます、と。

私は兄に、アメリカの政治は悪いけれど、そこに住む人達は一般的には親切で、私達のように良い人間だから手伝ってくれると約束しました。

その後カリフォルニアに帰ると、ロサンゼルス空港に迎えに来てくれた息子達が言いました。FBIがお母さんに会いたがっているよ、と。

私は聞きました。なぜFBIが私に会う必要があるのか、と。国務省に3回電話して、ベトナムを助けるために行きたいと言いましたが、彼らは、行ってはいけない、あなたは共産国には入ってはいけないと言われました。でも私は自分の夢のためにベトナムに行きました。そんな私に、彼らはなんの話があるのでしょうか。

まず、男性二人がワシントンD.C.から来ました。私に、アメリカのためにスパイになってくれと頼みに来たのです。彼らはベトナムに戻って、アメリカが戦争中に置いてきた武器などが現在どうなっているか、ロシア人が何人いるか、共産主義政権がどのように国を運営しているのか、という情報を知りたがっていたのです。

私は怒って、嫌です、戦争を生み出すためのスパイはできません。私は平和がほしいのです。スパイではなく、アメリカとベトナムの間に友情をもたらしたいのです、と言いました。

彼らは言いました。ヘイスリップさん、あなたはアメリカ国民です。共産主義者達は排除しなければなりません。アメリカに平和と自由をもたらしたいのです。それゆえ、アメリカ国民であるあなたは、アメリカのために我々に協力しなければなりません、と。

そして私は言いました。あなたは男性で、私は女性です。あなたはアメリカ人で、私はベトナム人です。あなたがほしいものと、私がほしいものは異なります。私は人間としてほしいものを求めます。あなたがほしいのは戦争

であり憎しみである、私がほしいのはキスであり自由です。私のやり方で、どのように戦争することなくアメリカ人とベトナム人を一つにするかを見せたいのです。スパイをすることは人道主義に反します、と。

1986年、ベトナムは非常に貧しく、医療品もなく、教育システムも不十分で、インフラも整備されておらず、まるでここ日本が70年前に完全に破壊された状況と同じようでした。

そのあと私はロシアにもキューバにも行き、援助を求めました。しかし私は彼らも同じように貧しく、ベトナムと同じ問題を抱えているとわかったのです。

ここで私になにができるかと考え始めました。どのようにベトナムの力になれるのでしょうか。本を書こうと思いました。二冊の本が成功を収め、映画にもなりました。本によって、アメリカ人に初めて、こんなことがあったという事実を知ってもらうことができました。

本の中にはたくさんの資料、情報が書いてあります。残念ながら本日は持っておりませんが、もっと多くの情報を得ることができますし、日本語版もあります。1986年ベトナム人として生まれアメリカ国籍である私が、当時アメリカでどのような生活を送っていたかということを知ることができます。

1冊目は1989年に出版、2冊目は1993年に、映画は1994年に公開されました。これらは全て戦争がどのようなものだったのかを世界に示しています。どこで発生したのか、何人の人が亡くなったのかなどは問題ではありません。何がどれだけあったのかと後ろを振り返るのではなく、未来を見るのです。癒しを求めするため、どうしたら変わることができるかを探すためです。未来のため、本や映画を公開しました。

アメリカは当時後ろ向きで、在住のベトナム人は、難民、共産主義者、ボートピープル、ハノイ・ヒルトン(米軍捕虜収容所)等、ひどいことをずっと言われてきました。でも問題は何がそういうことを言わせるようになったかということです。



本の公開によって、初めてのベトナムという国、そしてベトナム人の声が届きました。ベトナムに戦争ではなく平和なベトナムを見てほしかった。退役兵士が戻ってきたときに、どれだけベトナム人は心を開いて受け入れることができるか、許す心を持っているのか、見てほしかったのです。共産主義と資本主義、アメリカ人とベトナム人。分かれていても、私達は家族として共存できます。それが私のスタイルです。大きな家族として、大きな橋を架けることをどうすればできるのかを考え行動しました。

ですので、1994年に本や映画が公開されると、多くの日本人やアメリカ人が、多くは私の出身地であるダナン市に来てくれるようになりました。しかしながら、まだまだ道のりは長いです。地雷や枯葉剤の影響、医療の問題、教育遅れなど、今でも問題が数多く残っています。

私は、たくさんの日本の方たちが日本とベトナムを行き来しているのを見て感謝しています。ここにもベトナムの旗もあり、嬉しくなりました。私は願っています、いつかベトナムがより豊かな国になることを、広島大学や日本各地にある大学のような、素晴らしい大学がベトナムにできることを。私達の時代には教育がありませんでした。当時、女の子は学校に行けませんでしたし、両親も読み書きができません。私は幸運なことに末っ子だったので、ほんの少しだけですが、ベトナム語の読み書きができます。渡米した時、私はたくさんの問題を抱えていました。だから教育は何より大事なのです。心や知識、知性、賢さによって、知れば知るほどそれを使うことができ、人を繋ぐことができるのです。

だから、これまでの30年間、私はベトナムに6か所の一般病院と、100か所の診療所、そして1000もの学校などの教育施設を作りました。それら全て良かったと思っています。施設を作っても欠けているものがある。私たちに必要なのは、知識や、そのプロフェッショナル、医療機器や医師、教師などで、その人材がベトナムには不足しているのです。

昨日、広島大学の医学部長室へ入る機会がありました。壁には歴代学部長

の写真がたくさんかけられていました。代々の教育者が並んでおり、嬉しく、そして誇らしくなりました。私は輪廻転生を信じています。次に生まれ変わったら、彼らのうちの一人になることを願っています。心を育てて世の中に貢献できる人間になると信じています。なぜなら、知性がなければ、私達は戦争を生み、憎しみを作り出し、貧困を生み出すだけだからです。

今日の技術のおかげで、世界はとて小さくなりました。コンピューターや iPad, iPhone を持って、ベッドへ行くことができます。ベトナムや南アフリカ、アメリカなどの文化や出来事を知ることができます。世界ではどのように他の人が生きているのか、他にどんな文化があるのかを知ることができます。それを知って、ではこれから何をするのかを考えます。事実を知ること、私達は友達になれたり、同情心を持てたりするのです。

私は二つの基金を立ち上げています。とてもたくさんの日本の医師や教授、そして様々なボランティアがここへ来てくださることを願っています。もしボランティアをしたいと思うなら、アドバイスがあります。特に若い方に、恋愛や、結婚は、今は置いておいて、まずはたくさん旅行へ行き、助けられる人があれば助けてあげてください、国外はどうなっているのかを知ってください。そうすれば、もし国が戦争をすると決めても、戦争に行くことになった時に、どういう人と戦うのかわかるからです。もしその方たちを助けたと思えたら、幸せなことです。

多くの課題があり、今日は政治的な話はしないうもりだったのですが、ひとつだけお話しさせてください。人はばらばらになっても、ばらばらにされてもいけない、人は大きな一つの家族であるという信念が私にはあります。今アメリカでは約 30 日後に大統領選挙を控えています。ご存知の通り、ドナルド・トランプとクリントンが闘っており、みんな迷っています。トランプが何を未来にもたらすのか、クリントンがアメリカと未来に何をもたらすのでしょうか。今孫がいる私が思うことは、私は 30 年後のアメリカは世界中でたくさんの異なる役割を演じることはできないのではないかと考えていま

す。アメリカ国民で嫌だと思える唯一のことは、アメリカ人は良い人だけでも、政治はそうではないということです。ですから、私達は、ふさわしい人を選ばなければなりません。国内がバラバラになっていくようなことがなく、他国に悪影響を及ぼすことにならないようにと思います。そして、あなた方も意見をシェアするなどして、声を上げることができるのです。

そしてベトナム、カンボジア、ラオスの三つの国には、ご存知の通り、地雷が数多く埋まっています。最近オバマ大統領がラオスを訪問し、地雷処理として、現地へ貢献すると声明を出しました。ベトナムは20年前から地雷の撤去を手伝ってもらっていますが、ラオスでは初めてのことです。現在、そのようなプロジェクトが進行していること、それが重要です。

私は、30年間、アメリカの退役軍人をベトナムに迎え入れて、一緒に働いてもらっていますが、その時に学んだのは、PTSDのごとでした。PTSDが退役軍人にまさに襲いかかっています。戦争中のベトナムで戦いをくり返しながら、1,2年過ごすことは簡単なことではないにもかかわらず、その後、アメリカに帰って普通の暮らしに戻っています。

退役軍人達には、癒されるために、ベトナムに戻る必要があることがわかりました。ベトナムに戻って、中にはベトナムに住み、ベトナム人女性と結婚する方もいます。なぜなら、ベトナム人は寛容で、長い間もがいてきた彼らを受け入れる心があるのです。彼らがしたことを許し、受け入れ、家族のように接しています。それが退役軍人たちを癒すのです。私は、人のつながりや他者理解が一番大事だと思っています。

ベトナム戦争は1975年に終わりましたが、それ以降もアメリカはたくさんの戦争を行っていました。アメリカ兵士はずっとPTSDに襲われていて、政府にとっても傷になっています。これは社会にとって良いことではありません。戦争が終わったからと言って、それで終わりではないのです。

私は他の国でもどの社会でもPTFDの問題を抱えていると確信しています。地震や津波、離婚など、様々なことが原因になっています。だから、私は仏

教徒として、自分の心のなかから平和になっていく、世界平和のため、平穏で幸せな気持ちでいられるよう瞑想していますし、いつも他者への同情の気持ちを持って愛を探し求めています。それが自分をも助けてくれます。そしてたくさんの友人や家族を誘います。なぜなら全て世界は混とんとしているからです。世界には悪いニュースばかりが溢れています。友人や家族を周りに置き愛を探し求めることで、穏やかな気持ちになっています。もし私たちがブッダの教えや、そしてご先祖様たちから教わるカルマを生き抜く方法を知らなかったら。毎日を平和に生きていくのは簡単なことではありなんでしょう。

私は一人の人は砂浜のたった一粒の砂だと考えていました。どのようにまとまったらいいのだろうか、一粒の砂に何ができるのだろうか。わかりますか？もし皆さん全員が砂浜の砂なら、皆さんは、ただ立ち上がり、社会にとって良いと思うことをしましょう。皆さんはできると思っています。

皆さんにとっても感謝しております。

以上